

感染性腸炎の新しい迅速検査

～糞便中カンピロバクター抗原キットの有用性～

座長

相野田 祐介 先生

国立がん研究センター東病院 感染症科

演者

小林 謙一郎 先生

日本赤十字社和歌山医療センター 感染症内科部

2024年 **2月11日**(日) 12:20～13:20

第5会場 パシフィコ横浜ノース 4F G403
〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-2

本学術総会ランチョンセミナーは整理券制となります。

配布日時 2月11日(日) 8:00～11:50(無くなり次第終了)

配布場所 パシフィコ横浜ノース 1F【参加受付付近】

- ・参加を希望されるセミナーの整理券をお取りいただき、セミナー入場時にお弁当とお引換えください。
- ・整理券配布は一人様1枚限り、先着順のうえ、無くなり次第、終了となります。
- ・入場は整理券をお持ちの方を優先させていただきます。
- ・セミナー開始5分経過後、整理券は無効となります。

感染性腸炎の新しい迅速検査

～糞便中カンピロバクター抗原キットの有用性～

演者

小林 謙一郎 先生

日本赤十字社和歌山医療センター 感染症内科部

カンピロバクター腸炎は、国内では細菌性食中毒の半数以上を占め、頻度が高い感染性腸炎である。症状は1週間程度で自然軽快する事が多いが、重症例や重症化のリスクが高い患者に対して抗菌薬治療を実施することがある。

カンピロバクター腸炎の診断は、従来から便培養検査で行われているが結果判明まで数日間を要する。また、便グラム染色は短時間で実施できるが感度は十分とは言えない。

今回、カンピロバクター迅速抗原検査キットが令和5年4月に保険適用となり、また、デンカ株式会社から糞便中カンピロバクター抗原キット(クイックナビ™-カンピロ)が令和5年12月に発売開始となった。本検査はイムノクロマト法によってカンピロバクター抗原(*Campylobacter jejuni* または *C. coli*)を検出する体外診断用医薬品であり、15分程度で判定可能である。

本キットの性能を評価する為、2014年6月から2015年10月までに国内12箇所の医療機関で、腸炎症状で受診した患者を対象に、臨床試験が実施された。培養法との比較で、陽性一致率75.6%、陰性一致率98.6%、陽性的中率97.0%、陰性的中率86.9%であった。陽性的中率が培養法との比較で高く、抗原キットが陽性であればほぼカンピロバクター腸炎と考えられる。抗原キットは短時間で実施可能であり、患者の受診当日に確実な診断、必要があれば抗菌薬治療を開始する事が出来る。